

平成22年度 日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立豊浦小学校 教諭 鈴木 巖

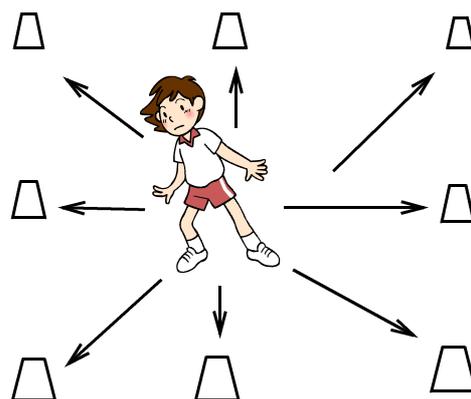
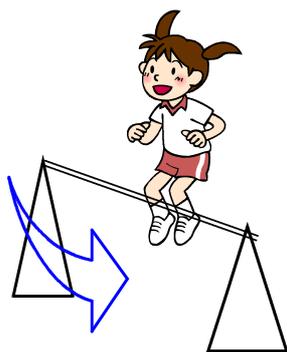
- 1 派遣期日 平成22年6月4日（金）
- 2 研修先 学校名 宇都宮大学教育学部附属小学校
所在地 栃木県宇都宮市松原1丁目7番38号
<http://www.utunomiya-u.ac.jp>

3 研修内容

初等教育公開研究発表会 研究主題 「学びを楽しむ子どもを育てる」

(1) 公開授業参観

- 第5学年体育 指導者 林田 浩二 教諭
- 研究主題 運動に親しみ、自ら体を鍛える子どもの育成
～動ける体をつくる体育授業の構想～
- 題材 体づくり運動（体力を高める運動）
- 本時の展開
- ①「すばやさやバランスの力を確かめよう。」



- バーを跳び越えくぐって戻る動きを
20秒間で何回できるかな。

- お手玉を1つずつ取ってかごに入れる
動きを、8個取り終わるのに何秒かかるかな。

②「バランス（平衡性）を高める運動をする。」

- バランスボールに、（条件1）手をつかっている、（条件2）手を離す、（条件3）手を離して膝で立つ状態で5秒間乗っていらればクリア。
- 平均台の上をケンケンで、（条件1）障害物なし、（条件2）両手でボールをもつ、（条件3）5つのマーカーを跳び越して渡り切れればクリア。

○〔授業を参観して〕

学習の流れがよく児童に伝わっており、児童がよく活動していた。また、バーの跳び越えでは、「上手なグループを観察すること」により、ジャンプの仕方やバーのくぐり方など、技術面での気づきが多数あり、回数を伸ばすことができた児童が増えた。上手な演技をみることによって、どうすればより多く回数をこなすことができるかが分かり、理解したことを自分でも実践してみようという意欲が表れていた。

また、男女混合のグループであったが、協力して準備・後片付けを行うことをはじめ、活動の中でも話し合いなどお互いに協力し合って高めようという姿勢がすばらしいと感じた。

全体的に、「自分の体力に関心をもってほしい」という指導者の願いがよく表れている

授業で、しきりに「おうちに帰ってからも取り組むことができる練習方法」を例示しながら児童の意欲を喚起していた。敏捷性を確かめる運動では、上手にできる児童の動きをみることによって、体重移動の方法や玉のとり方などのコツを見取ることができていた。

(2) 授業についての協議

- プレ授業と比較すると、本日の授業は教師の指示や活動内容などに意図が表れておりよくなっている。
- 教師の指示や児童相互の教え合いの中身が、コツに絞って話されているところがよかった。
- 「体育科の家庭学習」として、柔軟性や筋力などおうちでできる宿題を出すことも参考になった。
- 「体育科での言語活動のとらえ方」として、学習カードに記入する、作戦を話し合う、適切なアドバイスを与えるなどは、体育科の言語活動である。特に目新しい活動ではなく、普段の活動の中で自分の考えを何を使ってどう伝えるのかが体育科の言語活動ととらえている。活動の中で、「明確なめあて」や「よい動きの共有」を【伝える】という言語活動を通して理解できるようにしたい。
- 今後の課題として、活動量を確保する意味からも、待ち時間をどのように工夫して短くするのかを検討する必要がある。

(3) 全体会（東京学芸大学名誉教授 児島 邦宏先生の講話）

- 学力をめぐる今日的課題
 - ・「読み・書き・そろばん」をとるか「生きる力」をとるのか。
知の活用力の高い子どもは習得力も高いが、習得力の高い子どもは必ずしも活用力が高いとは言えない。
「読み・書き・そろばん」だけでは、一人前に育たない。
 - ・学力は、子どもの生活態度と育ち方と学力との相関が高い。（言語）
 - ・体験の喪失と学習の抽象化・受動化・機械的暗記主義
 - ・知る喜びの喪失
- 習得力・活用力を高める授業の工夫
 - ・基本的な取り組みの姿勢
 - ・個の理解を深める
 - ・教材の工夫
 - ・導入の工夫
 - ・子ども自ら学び考える指導技術
 - ・授業形態
 - ・学級の風土
 - ・小・中学校間の連携・接続

(感想)

中学年の「多様な動きを高める運動」では、子どもたちに任せて場の設定を行っても、助言の与え方次第で工夫したものができあがるということを学ぶことができた。ただし、質や運動量という意味では、さらに一步踏み込んだ指導が大切であることを感じた。

高学年の「体力を高める運動」では、筋力トレーニングと混同しがちな運動であり、指導する側もされる側もおもしろさを感じない、むしろ子どもからするとつらい・苦しい運動であるが、林田教諭のゲーム性を取り入れたことや継続して行ってきたこと、また、体力テストから劣っている力を補うことを意識していることなどは、とても参考になった。本校でも試したい内容である。本単元で身につけた技能が、子どもたちの「動ける体」をつくり、今後の様々な領域での運動に少なからず役立っていくことは想像がつく。今回学んだことから、体づくり運動を深く理解し、今後の指導に生かしたいと考える。